



TOKYO  
SYMPHONY  
ORCHESTRA

Jonathan Nott, *Music Director*

# 2017年度(平成29年度) 年次報告書

(2017年4月1日~2018年3月31日)

TOKYO SYMPHONY ORCHESTRA  
Annual Report 2017-2018



公益財団法人 東京交響楽団

# Message

## ご挨拶



ジュノサン・ノットの音楽監督就任5年目を迎え、皆様の大きな期待を感じています。楽団員も音楽監督に絶大な信頼を寄せており、期待に応える演奏をしようという熱意に溢れています。それにより、当楽団の公演はますます充実してきており、実力も向上してまいりました。

本年8月には日中平和友好条約締結40周年記念事業として中国・上海、杭州における公演を文化庁から受託いただきましたが、これはこれまで重ねた海外公演の実績と当楽団がオーケストラ界をリードしているという評価によるものです。

また、ありがたいことにご支援者の数も増え、2017年度は1億1千万円を超える寄付をいただきました。お陰様で2017年度は黒字となりましたが、今後は年間160公演を超える音楽活動に励み楽団員の待遇改善もすすめていきたいと考えております。

皆様の日頃のご支援に感謝申し上げますとともに、引き続き応援のほど、よろしくお願い申し上げます。

東京交響楽団

理事長 澤 田 秀 雄

## 2017年度活動概要

### 定期演奏会

音楽監督ジュノサン・ノットが、ブルックナー交響曲第5番(5月定期)、マーラー：交響曲第2番(7月定期)を演奏し、“ノットのドラマ作りがさえ渡る”(宮沢昭男)など、(ノット&東響)の評価が高まりました。また、10月定期ラヴェル：ボレロ(指揮=ノット)、11月定期ドヴォルザーク：

「新世界より」(指揮=スダーン)12月定期ベートーヴェン：「英雄」(指揮=ノット)、1月定期ムソルグスキー：「展覧会の絵」(指揮=飯森)など、良く知られた名曲のリハーサルに十分な時間をかけて仕上げ定期演奏会で取り上げることで、新たな魅力を放ちました。

楽団直属の合唱団である東響コーラスは、創立30周年を迎え、定期演奏会3公演に出演しました。なかでも4月定期 沼尻竜典指揮、グバイドゥーリナ：アッシジの聖フランチェスコによる「太陽の讃歌」では、チェロ(=堤剛)、打楽器、合唱というその特異な形態の作品を日本初演し、“微妙な音程の揺れや透明なユニゾンをかなり高精度で歌にしている取調賞。”(長木誠司)と高い評価を得ました。

その他、ヴェデルニコフ、ウィグルスワースなど、海外の実力ある指揮者を招聘し、充実した演奏を披露することができました。

東京オペラシティシリーズには、ハーマン：「タクシー・ドライバー」、オネゲル：「ラグビー」など特徴ある作品が並びました。名誉客演指揮者の大友直人が、芥川也寸志、團伊玖磨、黛敏郎という「3人の会」の作品を前半に、後半に千住明：オペラ「滝の白糸」から(演奏会形式)という邦人現代作品プログラムを上演し、話題となりました。

### 青少年育成プログラム、社会貢献事業

文化庁戦略的芸術文化創造推進事業に当楽団が提案した「フランチャイズ・オーケストラを中心とした市民のクオリティ・オブ・ライフの調査と向上のための事業」が採択され、その調査研究を報告書にまとめました。また、その一環として、ハンディ・キャップのある方も一緒に楽し

めるようオーケストラの臨場感を楽しめるVRアプリの開発、点字プログラム、音声プログラム、体感音響システム等の鑑賞のサポートを上げた「みんなで集えるコンサート」を実施しました。フランチャイズ・オーケストラを持っている市民のクオリティ・オブ・ライフ(恵まれた環境で仕事や生活を楽しむ豊かな人生)の向上に貢献すべく、当団は引き続き努力してまいります。

1998年から新潟市の主催で続いていた「わくわくキッズコンサート」公演(市内の小学5年生をりゅうとびあ新潟市民芸術文化会館に招待して5回+一般公演1回)が2017年度を最後に終了しました。2018年度は有料公演(1日2回)が行なわれませんが、楽団が主催する「子ども定期演奏会」(年4回)、「0歳からのオーケストラ」(1日2回)など、青少年の豊かな感受性を育むためのプログラムがますます重要な意味を持ってきます。

### 依頼公演 その他

川崎の夏の音楽祭「フェスタサマーミュージア」では、オープニングコンサートにおいて、ストラヴィンスキー：「春の祭典」を演奏し、そのライブ録音をCDとして発売しました。

ミュージア川崎のオペラ・シリーズ第2弾として、音楽監督ノットがハンマープリューゲルを演奏しながら指揮したモーツァルト「ドン・ジョヴァンニ」(演奏会形式)は、「小編成のオーケストラを自在に操り、軽やかなテンポで、ニュアンス豊かな生き生きとした演奏」(石戸谷結子)と評され、演奏会形式オペラの長所を活かした上演が話題となりました。

また、新国立劇場では、バレエ「白鳥と湖」、歌劇「ジークフリート」、喜歌劇「こうもり」、その他、細川俊夫のオペラ「松風」を演奏。ドイツの舞踏家サッシャ・バルツの演出とともに“音楽の細部まで丁寧に描き出した”(伊藤制子)と高い評価を得ました。

# Fiscal Report

## 財産・運営状況について

### 正味財産増減計算書の概要

(単位:千円)

科目	2017年度	2016年度	2015年度
経常収益計	1,322,658	1,351,315	1,226,689
内・事業収益	1,098,102	1,075,678	995,155
内・受取補助金	103,800	146,051	96,003
内・寄付金	113,132	122,529	126,634
経常費用計	1,263,361	1,380,417	1,219,712
当期経常増減額	59,297	△29,102	6,837

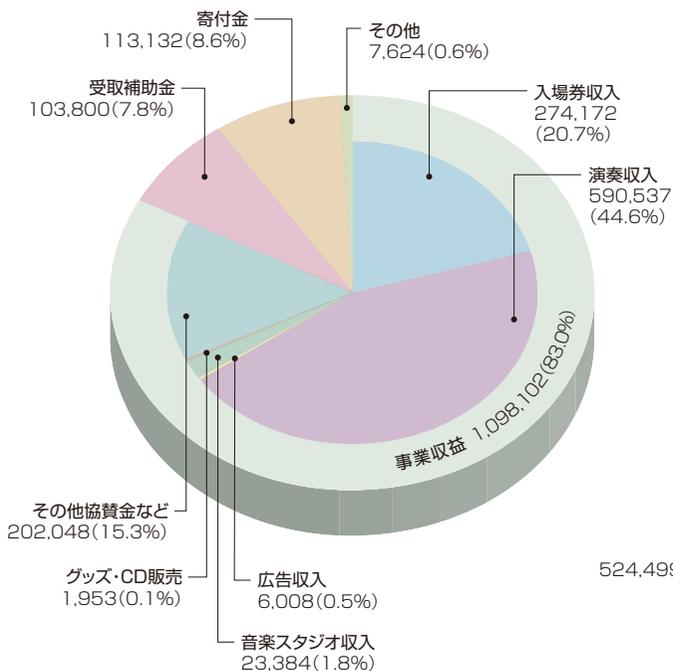
海外公演を行った2016年度の収入水準を保ちつつ、支出を抑えた結果として、2017年度は前年度の赤字額を補填する以上の黒字となりました。

自主公演チケット販売の好調、依頼公演の増加により事業収入が前年度をわずかに上回りました。一方で事業支出の面では依頼公演にか

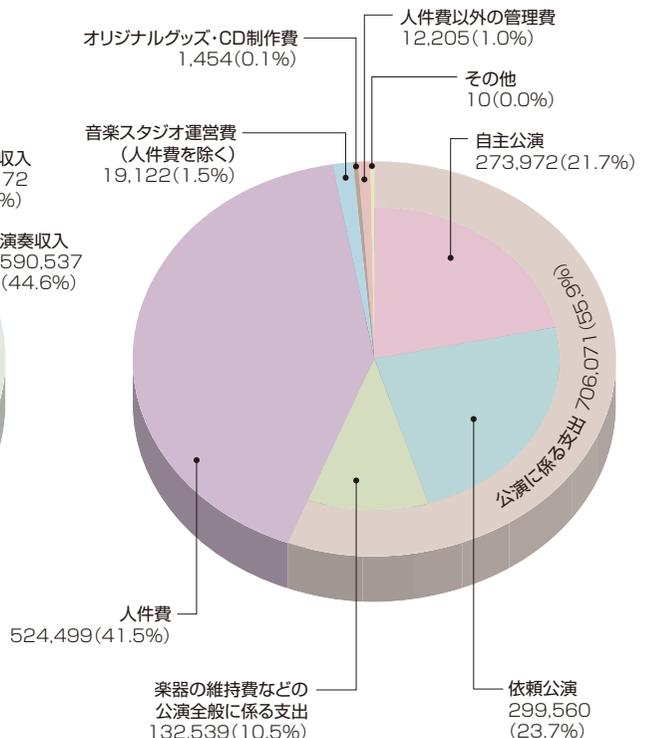
かる支出を減らすことで大幅に抑えることができました。

受取補助金や寄付金は、2016年度の海外公演への補助金や70周年記念寄付による特別収入の分が前年度比で減少したものの、多くの方が翌年以降も支援を継続してくださり、サポート会員数は増加傾向にあります。

**収入(2017年度) 1,322,658** (単位:千円)



**支出(2017年度) 1,263,361** (単位:千円)



# Across the 2017/18 Season

## 演奏記録(全165公演)

### ●自主公演(46回)

定期演奏会(第649回~第658回)	10回
川崎定期演奏会(第60回~第64回)	5回
東京オペラシティシリーズ(第97回~第102回)	6回
名曲全集(第126回~第135回)	10回
こども定期演奏会(第61回~第64回)	4回
特別演奏会	11回

### ●依頼公演(117回)

新潟定期演奏会(第101回~第106回)	6回
オペラ・バレエ公演	20回
音楽鑑賞教室・青少年のためのプログラム	30回
その他	61回

### ●その他の事業(2回)

録音	2回
----	----

4月定期演奏会 グバイドゥーリナ:

アッジの聖フランチェスコによる『太陽の讃歌』 2017年4月22日



八王子オペラ「アイダ」 2017年5月6日



7月定期演奏会  
ジョナサン・ノット指揮 マーラー:「復活」  
2017年7月15日



文化庁「文化芸術による子供の育成事業」  
高知県梶原町立梶原学園  
2017年7月8日



文化庁「文化芸術による子供の育成事業」  
兵庫県姫路市立四郷小学校  
2017年10月23日



CD「ストラヴィンスキー:春の祭典」



新国立劇場 ワグナー：オペラ「ジークフリート」指揮＝飯守泰次郎  
2017年6月（撮影：寺司正彦／提供：新国立劇場）



新国立劇場 細川俊夫：オペラ「松風」  
指揮＝デヴィッド・ロバート・コールマン 演出・振付＝サシャ・ヴァルツ  
2018年2月  
（撮影：鹿摩隆司／提供：新国立劇場）



「こども定期演奏会第62回」 2017年11月4日 サントリーホール  
ピアノ＝小山実稚恵、川崎莉子（こどもピアニスト）指揮＝下野竜也



オペラ「ドン・ジョヴァンニ」指揮＝ジョナサン・ノット 2017年12月10日



KDDI財団カンボジアワークショップ（木管五重奏）  
2018年1月25日



# Tokyo Symphony Orchestra

## 公益財団法人東京交響楽団 Orchestra

- 音楽監督..... ジョナサン・ノット
- 桂冠指揮者..... 秋山和慶 / ユベール・スダーン
- 正指揮者..... 飯森範親
- 名誉客演指揮者..... 大友直人
- 永久名誉指揮者  
..... アルヴァイド・ヤンソンス◆ / 上田仁◆ / 遠山信二◆
- 名誉コンサートマスター..... 大谷康子
- 第一コンサートマスター..... グレブ・ニキティン
- コンサートマスター..... 水谷 晃
- アシスタント・コンサートマスター..... 田尻 順 / 廣岡克隆

- 会 長 横川 端
- 理 事 長 澤田秀雄
- 副 理 事 長 平澤 創
- 依田 巽
- 専 務 理 事 大野順二
- 理 事 阿部武彦
- 池辺晋一郎
- 伊藤美樹
- 大橋 博
- 岡崎哲也
- 庄司 薫
- 永山 治
- 夏野 剛
- 南部靖之
- 福川伸次
- 藤原 洋
- 増岡聡一郎

- 監 事 磯村文靖
- 寺西基之
- 評 議 員 長 金山茂人
- 最 高 顧 問
- 評 議 員 梅沢一彦
- 鷲海量明
- 片山泰輔
- 西村 朗
- 星 久人
- 松木康夫
- 山添 茂
- 横川 寛
- 特 別 顧 問 飯島延浩
- 福田紀彦
- 山田長満
- 顧 問 公 認 会 計 士 松本 博

<p><b>1st Violins</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○木村正貴</li> <li>○堀内幸子</li> <li>小川敦子</li> <li>加藤幸子</li> <li>立岡百合恵</li> <li>土屋杏子</li> <li>中村楓子</li> <li>吉川万理</li> <li>大和田ルース</li> <li>鈴木浩司*</li> </ul>	<p><b>Violas</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○青木篤子</li> <li>○武生直子</li> <li>○西村眞紀</li> <li>○多井千洋</li> <li>○山廣みほ</li> <li>大角 彩</li> <li>小西応興</li> <li>鈴木まり奈</li> <li>永井聖乃</li> <li>松崎里絵</li> </ul>	<p><b>Flutes</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○相澤政宏</li> <li>○甲藤さち</li> </ul> <p><b>Flute &amp; Piccolo</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>高野成之</li> <li>濱崎麻里子</li> </ul>	<p><b>Horns</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○上間善之</li> <li>○大野雄太</li> <li>○ジョナサン・ハミル</li> <li>大和田浩明</li> <li>阪本正彦</li> <li>鈴木 優</li> <li>曾根敦子</li> </ul>	<p><b>Timpani &amp; Percussions</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○清水 太</li> <li>○新澤義美</li> <li>武山芳史</li> <li>綱川淳美</li> </ul> <p><b>Harp</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○景山梨乃</li> </ul>	<p><b>楽団長</b></p> <p>大野順二</p> <p><b>編成局長&amp;パーソネル・マネージャー</b></p> <p>藤原 真</p> <p><b>事務室長</b></p> <p>辻 敏</p> <p><b>事務局</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>△尾木貴雄</li> <li>△豊山 悟</li> <li>□梶川純子</li> <li>長久保宏太郎</li> <li>桐原美砂</li> <li>廣中憲士</li> <li>佐藤雄己</li> <li>美濃部敦</li> <li>高瀬 緑</li> <li>山口 彩</li> <li>竹内裕子</li> <li>山田道子</li> <li>□本部長</li> <li>△部長</li> </ul>	
<p><b>2nd Violins</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○坂井みどり</li> <li>○清水泰明</li> <li>○服部亜矢子</li> <li>○加藤まな</li> <li>○福留史紘</li> <li>阿部真弓</li> <li>小川さえ子</li> <li>河裾あずさ</li> <li>塩谷しずか</li> <li>竹田詩織</li> <li>日野 奏</li> <li>渡辺裕子</li> <li>森岡ゆりあ*</li> </ul>	<p><b>Cellos</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○伊藤文嗣</li> <li>○西谷牧人</li> <li>○川井真由美</li> <li>○黄原亮司</li> <li>○謝名元 民</li> <li>大宮理人</li> <li>樋口泰世</li> <li>蟹江慶行*</li> </ul> <p><b>Double Basses</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○加藤信吾</li> <li>○北村一平</li> <li>○久松ちず</li> <li>安田修平</li> <li>渡邊淳子</li> <li>笠原勝二</li> <li>渡辺哲郎</li> </ul>	<p><b>Oboes</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○荒 絵理子</li> <li>○荒木奏美</li> <li>池田 肇</li> <li>篠崎 隆</li> </ul> <p><b>Oboe &amp; English horn</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>最上峰行</li> </ul>	<p><b>Trumpets</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○佐藤友紀</li> <li>○澤田真人</li> <li>野沢岳史</li> <li>松山 萌*</li> </ul> <p><b>Trombones</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○大馬直人</li> <li>○鳥塚心輔</li> <li>住川佳祐*</li> </ul>	<p><b>Librarians</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>★武田英昭</li> </ul> <p><b>Stage Managers</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>山本 聡</li> </ul> <p><b>荣誉団員</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>井伊 準◆</li> <li>鷹栖光昭◆</li> </ul>	<p><b>Bass Trombone</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>藤井良太</li> </ul> <p><b>Tuba</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○渡辺 功</li> </ul>	<p><b>Bassoons</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○福井 蔵</li> <li>○福士マリ子</li> <li>坂井由佳</li> <li>前関祐紀</li> </ul>

○首席奏者 ○フォアシュピラー ★チーフ ◆故人

(2018年7月31日現在)



## TOKYO SYMPHONY ORCHESTRA

Jonathan Nott, Music Director

1946年、第二次世界大戦によって中断された音楽文化の再建と、新しい舞台音楽の公演を目標に「東京交響楽団」として創立。1951年に「東京交響楽団」に改称し、現在に至る。歴代の指揮者陣には、往年の名指揮者アルヴィド・ヤンソンス、近衛秀麿や上田仁らが名を連ね、外来音楽家が珍しかった1950年代から世界的な演奏家と数多く共演する。指揮者ではマゼール、ヨッフム、フルネ、カザルス、独奏者ではバックハウス、オISTRAフ、ケンプ、ロストロポーヴィチらを迎え、聴衆を魅了してきた。

現代音楽やオペラの初演に定評があり、主な作品には1940年代から1950年代にかけてのショスタコーヴィチ「交響曲第7番～第12番」の日本初演、武満徹「弦楽のためのレクイエム」(1957年、委嘱初演)、シェンベルクの歌劇「モーゼとアロン」(1994年、邦人初演、演奏会形式)、ラッヘンマンのオペラ「マッチ売りの少女」(2000年、日本初演、演奏会形式)、黛敏郎のオペラ「古事記」(2001年、日本初演、演奏会形式)、アダムズ「エル・ニーニョ」(2003年、日本初演)とオペラ「フラウリングツリー\*花咲く木」(2008年、日本初演、セミ・ステージ形式)、ヘンツェのオペラ「ルプバ」(2007年、日本初演、演奏会形式)、ヤナーチェク・オペラシリーズがある。

これらの活動により、文部大臣賞、音楽之友社賞、京都音楽賞大賞、毎日芸術賞、文化庁芸術作品賞、モービル音楽賞、サントリー音楽賞、中島健蔵音楽賞特別賞、ミュージックベンクラブ音楽賞等、日本の主要な音楽賞の殆どを受賞。

舞台芸術創造活動活性化事業として文化庁の助成を受け、サントリーホール、ミューザ川崎シンフォニーホール、東京オペラシティコンサートホールで主催公演を行うほか、2004年からは川崎市のフランチャイズオーケストラとして定期演奏会や特別演奏会、音楽鑑賞教室や市内施設への巡回公演などのコミュニティ活動を実施している。これらが高く評価され、2013年に川崎市文化賞を受賞。また、新潟市では1999年より準フランチャイズ契約のもと、定期演奏会や「わくわくキッズコンサート」、学校や病院で室内楽演奏を行い、東京都八王子市では2013年度より(公財)八王子市

学園都市文化ふれあい財団と提携し、コンサートやアウトリーチなどを積極的に展開している。これら地域に密着した活動の一方で、海外においても57都市で76公演を行い、音楽的・社会的に国際交流の実を挙げってきた。

また、新国立劇場では1997年の開館時からレギュラーオーケストラのひとつとしてオペラ・バレエ公演を担当。さらに、子どものための演奏会にもいち早く取り組んでおり、近年では「0歳からのオーケストラ」(2007年～)が「次世代への音楽文化の伝承に多大に寄与している」として、2010年にひまわり褒章を受賞。サントリーホールとの共催による「こども定期演奏会」(2001年～)は、日本で初めての「子どものための定期演奏会」という、その斬新な発想が多方面から注目されている。

東日本大震災を機に、2011年5月から楽団員によるチャリティコンサート「Concert For Smiles」を定期的に開催。この募金は(公財)国際開発支援財団を通じて被災地の復興に役立てられている。

録音においては、TOKYO SYMPHONYレーベル「シューベルト交響曲集(指揮=ユベール・スダーン)」をはじめ、EXTONレーベル「ブルックナー: 交響曲第8番(指揮=ジョナサン・ノット)」、N&Fレーベル「ブルックナー: 交響曲第7番、第8番(指揮=ユベール・スダーン)」、キングレコード、日本コロムビア等から多数のCDをリリース。映画やテレビでの演奏も数多く、中でもテレビ朝日「題名のない音楽会」は、1964年の番組開始時よりレギュラー出演している。

2012年9月には、理事長に(株)エイチ・アイ・エス会長の澤田秀雄を迎え、横川端会長、依田巽、平澤創副理事長での体制に移行した。

2014年度シーズンより、ジョナサン・ノットが第3代音楽監督に就任。正指揮者に飯森範親、桂冠指揮者に秋山和慶、ユベール・スダーン、名誉客演指揮者に大友直人を擁する。2016年に創立70周年を迎え、同年10月にウィーン楽友協会を含むヨーロッパ5カ国で公演を行い、各地で好評を得た。

公式サイト:<http://tokyosymphony.jp/>

## ～皆様からのご支援お待ちしております～

東京交響楽団の活動は個人・法人の皆様から寄せられるあたたかきご寄付とともに成り立っています。財政状況や定款、税制上の優遇措置についてはウェブ上でもご覧いただけます。

ご質問等ございましたら東京交響楽団川崎オフィス支援開拓本部までお問い合わせください。

## 公益財団法人 東京交響楽団

Tel:044-520-1518 <http://tokyosymphony.jp>

本部 〒169-0073 東京都新宿区百人町2-23-5

川崎オフィス 〒212-8554 神奈川県川崎市幸区大宮町1310 ミューザ川崎セントラルタワー5階